

平成31年1月の解説（府県天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本、西日本では、冬型の気圧配置となる日が多く、特に3日頃にかけて冬型の気圧配置が強まり、寒気が流れ込む時期がありました。また、これらの地域では、低気圧や南からの湿った空気の影響は受けにくかったため、太平洋側を中心に降水量は少なくなりました。一方、沖縄・奄美では、低気圧や南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、日照時間はかなり少なくなりました。

中旬は、北日本では、冬型の気圧配置となる日が多くなりましたが、期間の前半は高気圧に覆われて日本海側でも晴れた日があり、日照時間は多くなりました。期間の後半は、日本の北を低気圧が通過し、その後は強い冬型の気圧配置となることがたびたびあったため、日本海側では暴風雪となった所がありました。東日本と西日本では、冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響で太平洋側でも雲の広がる時期がありましたが、南からの湿った空気の流れ込みは弱く、降水量の少ない所が多くなりました。沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った空気の影響に加え、一時的に大陸からの寒気の影響を受ける時期もあったため、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、日本海から日本の東にかけて低気圧がたびたび通過し、その都度強い冬型の気圧配置となりました。24日は、北海道付近を低気圧が発達しながら通過し、その後は強い冬型の気圧配置となったため、北日本を中心に大荒れの天気となりました。また、26日から27日にかけても冬型の気圧配置が強まり、全国的に寒気が流れ込み、山陰から北陸にかけての山地を中心に大雪となった所がありました。東日本太平洋側や西日本、沖縄・奄美では、冬型の気圧配置や大陸から移動してきた高気圧に覆われたため日照時間は多くなりましたが、31日は南岸低気圧の影響で東日本太平洋側や西日本ではまとまった雨となった所がありました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、東日本と西日本で高く、北日本では平年並でした。月降水量は、北日本太平洋側と東日本太平洋側、西日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と東日本日本海側、西日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、西日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本太平洋側、東日本で多かった一方、北日本日本海側では少なく、沖縄・奄美は平年並でした。降雪の深さ月合計は、北日本と東日本日本海側、西日本日本海側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本太平洋側では少なくなりました。月最深積雪は平年並となった地点が多く、日本海側を中心に少なくなった地点がありました。

【1月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも4ポイント高い87%で、明後日予報は例年値よりも5ポイント高い85%でした。地方別の適中率では、明日予報はすべての地方で例年値を上回り、特に九州北部地方では例年値よりも12ポイント高くなりました。明後日予報は北陸地方以外の各地方で例年値以上となり、特に九州南部地方では13ポイント、九州南部地方では11ポイント、それぞれ例年値より高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.1℃で、すべての地方で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.3℃で、すべての地方で例年値を下回りました。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報の利用にあたって】

3月になると日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通

過して、天気が数日の周期で変わり、気温の変動が大きくなります。また、急速に発達する低気圧がもたらす「春の嵐」では、突風や強風に注意が必要です。最新の天気や気温の予報を利用して、災害の防止や健康管理等に役立てて下さい。